

地理 問題I 出題意図および正解・解答例

本問は、極域の自然環境および日本の地形と自然災害に関する大問である。経緯度、河川、気候、植生、土壌、近年の北極域における環境変化とそれに関連する事柄について幅広く問い、自然地理の基礎的知識と論述能力を把握することにした。また、最近、急速に整備が進んでいる地理院地図を素材にして、地形図読図能力を測る問も出題した。

問1 A, G

問2 10000 km 南緯60度に沿って地球を半周することを考慮して、解答を導く。

問3 ア：O イ：P ウ：Q

問4 S：オビ川 T：エニセイ川 U：レナ川 V：マッケンジー川

河川の凍結、気候、植生などについて触れる。

問5 海氷域面積の減少こともなう、北極海航路の実用化や北極海の海底資源の探査・開発、生態系の変化などを論じる。

問6 山麓の扇状地(X)と沖積低地の後背湿地(Y)の違いに着目して解答する。

地理 問題Ⅱ 出題意図および正解・解答例

本問は、日本および海外諸国の産業と資源に関する大問であり、グローバル化と食料供給の変化（問1）、世界における森林資源および1次エネルギーの利用の地域的特徴（問2、問3）、近年の日本における一次エネルギー供給のあり様（問4）についてそれぞれ問うた。

問1

ア 野菜    イ 肉類    ウ 果実    エ 米

農産物供給をめぐる政策の転換、輸送技術の発展、食の洋風化に伴う食料需要の変化といった食料供給を取り巻く政治的・社会的・文化的な状況の変化を考慮しながら、解答を導く。

問2

南アメリカや東南アジア、アフリカの発展途上国において、主に薪炭材の供給を目的として森林の伐採が進んでいる点、また、ブラジルやインドネシアで森林減少面積が顕著であり、それらが大規模なプランテーションや農地の開発とも大きく関係している点などを考慮して、解答を導く。

問3

カ アメリカ合衆国    キ カナダ    ク オーストラリア    ケ ドイツ

問4

原子力や天然ガスのような代替エネルギーの利用拡大により石油依存度が低減してきた点、地球温暖化を背景として持続可能な社会の構築に向けてクリーンエネルギーが注目されている点、2011年以降は震災を背景として電力供給のあり方が見直されつつある点などを考慮して、解答を導く。

地理 問題Ⅲ 出題意図および正解・解答例

Aの問題は、集落の成り立ちに関して、理解度を問うたものである。山地と平野の境界では両地域からの物資の交易点として集落が発達した。丘上集落は主として外敵からの防御のために丘の上に立地した集落である。台地と海岸平野の境界にあたる線状には滝が分布し、その滝の落差を利用しての水力をつかった産業が発達した。

Bの問題は、産業別人口構成を例に、三角グラフを読み取る力を問うたものである。国内経済の発展の度合いに応じ、産業構成は第1次から第2次、そして第3次へと高度化するといわれる。この図から、第1次産業の人口の割合についてはバングラデシュが他と比べて最も高く、第2次産業のそれについてはチェコが、第3次産業のそれについてはイギリスが、それぞれ他と比べて最も高いことがわかる。フィリピンとブラジルとは、第2次産業の人口の割合に大きな違いが見られないものの、第3次産業のそれを見るとブラジルの方が高いことがわかる。

問1 (か) 集 (き) 散 (く) 塊  
(さ) 短冊 (し) タウンシップ

問3 (1) a: バングラデシュ b: フィリピン c: チェコ d: ブラジル e: イギリス

(2) X: 第2次産業 Y: 第3次産業 Z: 第1次産業

(3) a

※問2および問3の(4)は出題意図参照

## 地理 問題Ⅳ 出題意図および正解・解答例

本問では、中国に関する地誌的知識をベースに、大地形の特徴（問 1）、乾燥気候の分布と成因および関連する環境問題（問 2）、南北地域間の気候の差異と穀物生産（米、小麦、トウモロコシ）との関連（問 3）、大都市の分布と改革開放政策以降のその変化、経済発展の地域格差やそれに伴う都市問題（問 4）といった総合的な観点から地理的思考力、統計やグラフの読解力、文章表現力を問うた。

### 〈正答〉

問 1 : (ア) B、(イ) C、(ウ) A ; 問 2 : (カ) f、(キ) e ; 問 3 : (サ) m (武漢)、(シ) k (長春)、(ス) l (鄭州)、(セ) n (広州)、(タ) L (河南省)、(チ) K (吉林省)、(ツ) M (湖北省)、(テ) N (広東省) ; 問 4 : X (1985 年)、Y (1970 年)、Z (2000 年)

※問 2～問 4 は出題意図も参照